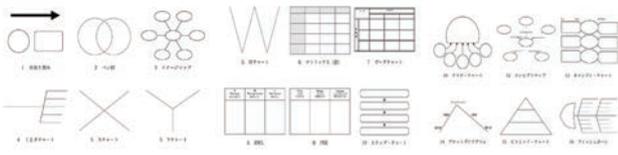


授業の玉手箱

Graphic Organizer の活用

中井 弘一

「思考力・判断力・表現力」の育成が強く求められているが、思考は目に見えるものではないので、どういう状況にあるのか把握できず、ゆえにどう指導すれば良いのかわからないことが多い。いわゆる Input と Output とを結ぶ Intake(内在化)の思考のプロセスをまず把握しなければならない。Bloom (revised 2001) は思考のプロセスを remembering, understanding, applying, analyzing, evaluating, creating の段階順としている。このプロセスでは、まず与えられた情報を分類し、その内容がどのような関係構造になっているのか並べ替えて整理することが必要である。その際、下に例示するグラフィック・オーガナイザーを使って図式化して整理すると、全体の構造がイメージしやすくなる。グラフィック・オーガナイザーは、生徒が自分の知っていることを考え、視覚化し、整理するのに役立つ。物事の間関係を明らかにし、考えをまとめ、計画やプロセスの段階を組み立てるために、思考を可視化する Thinking tool として活用することを薦める。



参考：黒上晴夫 (2012) 『シンキングツール ～考えることを教えたい』
http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf

書籍紹介

『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』

ガイ・ドイッチャー著 (椋田直子 訳) インターシフト (2012) 2400 円、207 ページ

英語を教えていると、やはりこのようなタイトルの本は見逃せない。原書のタイトルは Through the Language Glass: Why the World Looks Different in Other Languages で、こちらのほうがより魅力的である。

本書で、言語学者ガイ・ドイッチャーは「言語が違えば、世界はどのように違って見えるのか」、すなわち「言語(母語)は思考や知覚にどのように影響を与えるか」というテーマを探るために、古代ギリシャから現代、未開社会から現代社会まで実に広範な時空を駆け巡っている。そして、本書を読みやすく説得力あるものにしていく理由として、筆者は、「色感」、「方位感覚(左右と東西)」、「ジェンダー(男性名詞と女性名詞)」等を例に日常生活のなかの現実的な文化領域内を探索している。外国人にとってはどことなく違和感があるといわれる日本の信号の色が生まれたいきさつ(国際基準に準拠する緑(「進め」)の範囲内でありながら、日本語で「アオ信号」と呼ぶにふさわしい絶妙な色合い)もなるほどと頷ける。

「言語が思考を形づくり、決定する」という言語相対論を主張したのはエドワード・サピアとベンジャミン・リー・ウォーフである(サピア・ウォーフの仮説)。ホビ族など北米少数民族の言語調査研究に依拠した仮説は、インド・ヨーロッパ語族中心の世界観を打ち破ったため、大きな注目を集めたとも言われている。次に現れたのがチョムスキーである。チョムスキーは、人間は生まれながらに普遍文法を持ち、人間の先天的特徴を表現するものとしての言語の様相こそが本質的に重要であるとした生成文法(普遍文法)論を提唱した。(チョムスキーは「火星の科学者が地球を観察したら、地上のすべての人間は単一言語の諸方言を話していると結論づけるに違いない」といったそうだ。)

さて、本書はそのタイトルから、言語相対論と生成文法論という二項対立論を戦わせ、言語相対論の復権に組するのだろうかと思いきや、そ

の立場にはない。最新の脳神経科学の発達や精緻な心理実験に裏打ちされた認知言語学の知見を拠り所として、「言語(母語)は思考を限界づけはしないが、話し手の心の習慣を形づくり、認知・記憶・連想などに大きな影響を与える力を持つ」とするのが本書の主張である。言語学習者の認知や記憶の領域は言語を介したコミュニケーション研究の観点からも興味深い。

本書は、言語と思考の関係性をめぐるテーマに時間軸を加え、パラダイムシフト(時代による世界観や価値観の変遷)の構図の中で論じているように思う。好著である。
(東條 加寿子)

大阪女学院大学「教員免許状更新講習1・2」 平成25年度講習

http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate

各講習：中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計30名

■講習1 平成25年8月5日(月) 9:10~16:40

「思考力・判断力・表現力」の育成をめざす指導

- ・国際社会を読み解く英語力 ー異文化理解の視点から時事素材を教材としてー
東條 加寿子 大阪女学院大学 教授
- ・思考力を高める英語授業 ー様々な thinking skills を取り入れてー
中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【国際社会を読み解く英語力】グローバル化の進む国際社会で通用する「思考力・判断力」を養うためには、自文化の価値判断や思考回路から脱却した異文化理解の視点が必要であることを、時事英語素材を使って演習する。【思考力を高める英語授業】「思考力・判断力・表現力」を育成する指導の構成要素は何か、その key competencies とは何かを探りながら、critical thinkingをはじめ様々な thinking skills や PBL などを用いた実際の教材展開例を考える。

■講習2 平成25年8月6日(火) 9:10~16:40

「発音指導とリスニング指導のワークショップ・クリニック」

- ・発音の向上と発音指導の見直し
夫 明美 大阪女学院短期大学 准教授
- ・英語リスニングのクリニック1：文レベルの音のつながり
東條 加寿子 大阪女学院大学 教授
- ・英語リスニングのクリニック2：リスニングのストラテジー
中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【発音の向上と発音指導の見直し】体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習及び発音指導のヒントについて考える。【リスニングのクリニック1】文レベルの音のつながりを取り扱い、リスニング(音声情報)とリーディング(文字情報)を関連付けたスラッシュリスニングの指導法について考える。【リスニングのクリニック2】リスニングにおける音の判定と識別の遅れをなくし、音を意味化する処理に生じる遅れも小さくするリスニングのストラテジーを考える。

■ 受講申し込み受付

平成25年4月11日(木)より7月19日(金)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。(申込方法) 教員養成センターメールアドレス(ttc@wilmina.ac.jp)宛に、1)お名前(漢字・ふりがな) 2)メールアドレス 3)ご連絡先電話番号 4)ご勤務先・所属等 5)希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○受講料 5,000 円(所定の口座へ振り込み)



編集後記

本学は4年制大学に教職課程を設置して以来4年目を迎え、今年度が完成年度である。現職教員の皆さんとともに、明日の教育を考える教育機関としての役割を担うようこれからも着実な歩みを示してゆきたい。本号は第13号、勉強会は第22回を迎える。To teach is to touch the future. ともに頑張りましょう。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp